

コロナ乗り越え 安陵巣立つ



祝 第74期生

台風の影響で2回の順延を経て開催された体育祭(令和4年9月7日)後の笑顔の3年生、無観客・午前開催でも全力で取り組んだ。(本校上部グラウンド)

大高ジャーナル

発行所
鹿児島県立大島高等学校
新聞部
奄美市名瀬安勝町7-1

祝 卒業特集号

1面 〇74期生進路速報
〇〔3年生にアンケート〕高校生活で楽しかったことは？
2面 〇思い出のお店・施設

大高ミニギャラリー



第70回県下一周駅伝で大島地区代表として、力走する西航一郎先生(理科)



奄美大島
奄美大島は鹿児島県本土から南西約370km、面積712.35平方km、広さ日本5位(本州等4島除く)の島、亜熱帯海洋性気候、奄美群島国立公園の一部

「人間は、何のために生きるのか」奄美にもゆかりある国民的映画シリーズ「男はつらいよ」の中で、主人公の寅さんに甥の満男はたずねた。寅さんは少し考えた後「生まれてきて良かったな、と思うことが何べんかあるじゃない。そのために生きてるんじゃないのか」と返した。▼3年生はコロナ禍による学校生活の制限を入学当初からずっと受けてきた。しかし、彼らは困難を乗り越えるための努力を惜しまなかった。「密」を避けるため様々な制約がある中、体育祭では地域ごとに受け継がれる応援団の演舞の伝統を守り、野球部は離島のハンデまでも乗り越えて島から甲子園の夢を実現した。困難の壁を乗り越えた先には「生まれてきて良かった」と思える景色があることを、3年生は示してくれた。▼「青春って、すごく密なので」夏の甲子園を制した仙台育英高校の須江航監督が優勝インタビューで語ったこの言葉は脚光を浴びた。制限の中、精一杯がきき、苦しみ、努力した3年間。春からは新たな道を歩む3年生の未来は、きっと明るいものになるはずだ。

大高坂

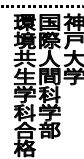
「男はつらいよ」

進路速報

国立大9名(推薦型等)合格
大学進学割合は増加へ

今年度は、昨年度よりも3年生の数が1クラス少ない(昨年度54人、今年度214人)ので、単純に比較できないが、昨年より専門学校進学者の割合が10%減少し、就職者も8人と減少しているため、大学進学者の割合の上昇が見込まれる。2月18日現在の数値で、推薦型選抜等で国立大に9人、私立大学54人、

公立短大2人、私立短大14人、専門学校56人が合格している。進路支援部の福元利之先生は「共通テストが3年目となり、出題傾向は安定してきたが、資料や文章を読み込む量が増え、受験生にとっては負担が大きいの。模試や過去問などに積極的に取り組むことが、共通テスト対策として必須となる」と語った。



重信湖杜子(3-1 篠川中) 神戸大学国際科学部環境共生学科合格

私は環境問題に関心があり、高校に入ってからには特に、探究活動の時間にサンゴの白化現象についての研究を行いました。その研究をさらに深めたいと思い、神戸大学国際科学部環境共生学科を受験し、合格しました。一次試験は模擬講義レポートと学科試験、二次試験は高校時代に行った研究のポスター発表と口頭試問、面接、小論文でした。試験に全集中して取り組み、結果は合格でした。将来は、研究を続けて、環境問題の解決に貢献していきたいです。

マスク生活でも知恵と工夫で楽しんだ日々

「楽しかったこと」

1位 部活動
2位 甲子園応援

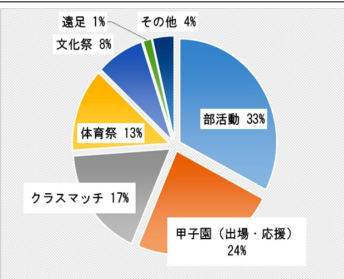
2020年4月、新型コロナウイルスが広まりを見せる中、入学した今年の卒業生は、その高校生活は、ずっとコロナに振り回されてきた。高校生活が始まって2週間ほどで、緊急事態宣言発令により休校に。さらに、その年の文化祭や体育祭、遠足などの学校行事は軒並み中止に。実施されたのは3学期のクラスマッチのみであった。2、3年

生になり、学校行事は再開されたが、プログラムの制限が設けられ、文化祭や体育祭の保護者の観覧は出来なかった。体育祭は1日開催から半日開催へと短縮され、名物であるムカデ競争も実施されなかった。

今年度の卒業生は、コロナの影響を受け、高校生活を十分に満喫出来なかった学年である。しかし、苦しい状況乗り越え、その中でも楽しむことを忘れた卒業生は、これからの人生も高校生活での経験を生かし、試験を乗り越え、楽しむことができるだろう。

今年度の卒業生は、コロナの影響を受け、高校生活を十分に満喫出来なかった学年である。しかし、苦しい状況乗り越え、その中でも楽しむことを忘れた卒業生は、これからの人生も高校生活での経験を生かし、試験を乗り越え、楽しむことができるだろう。

今年度の卒業生は、コロナの影響を受け、高校生活を十分に満喫出来なかった学年である。しかし、苦しい状況乗り越え、その中でも楽しむことを忘れた卒業生は、これからの人生も高校生活での経験を生かし、試験を乗り越え、楽しむことができるだろう。



Q. 3年間で最も楽しかったことは何ですか？(3年生138名回答)

「楽しかったこと」1位 部活動 2位 甲子園応援。2020年4月、新型コロナウイルスが広まりを見せる中、入学した今年の卒業生は、その高校生活は、ずっとコロナに振り回されてきた。高校生活が始まって2週間ほどで、緊急事態宣言発令により休校に。さらに、その年の文化祭や体育祭、遠足などの学校行事は軒並み中止に。実施されたのは3学期のクラスマッチのみであった。2、3年生になり、学校行事は再開されたが、プログラムの制限が設けられ、文化祭や体育祭の保護者の観覧は出来なかった。体育祭は1日開催から半日開催へと短縮され、名物であるムカデ競争も実施されなかった。今年度の卒業生は、コロナの影響を受け、高校生活を十分に満喫出来なかった学年である。しかし、苦しい状況乗り越え、その中でも楽しむことを忘れた卒業生は、これからの人生も高校生活での経験を生かし、試験を乗り越え、楽しむことができるだろう。

今年度の卒業生は、コロナの影響を受け、高校生活を十分に満喫出来なかった学年である。しかし、苦しい状況乗り越え、その中でも楽しむことを忘れた卒業生は、これからの人生も高校生活での経験を生かし、試験を乗り越え、楽しむことができるだろう。

祝卒業

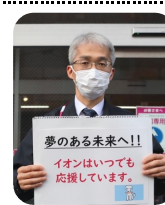
思い出のお店・施設に感謝！

3年生のコメントと街の方からお祝いの言葉

先輩方、御卒業おめでとうございます。新聞部から、先輩方へのささやかなプレゼントとして、3年生に実施したアンケートを基に、高校3年間で特に思い出に残っているお店・施設を訪ねてお祝いのメッセージをいただきました。3年生のコメントもあわせて掲載します。



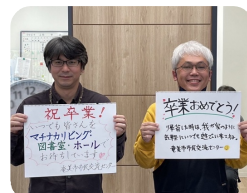
県立奄美図書館



イオンプラザ大島店



サンドイッチカフェ 奄美



奄美市 市民交流センター

大高一番星

うえのりん 上野 凛さん (3-1 朝日中出身)

Q 書道を始めたいきっかけはなんですか
A 入学した頃、書道室で袴を着て書いていた先輩方の姿が「可愛い」と思ったことがきっかけです。それまで書道の経験はなかったです。

Q 大賞をとった時の気持ちを教えてください
A 部活を引退後に顧問の先生から連絡を受け、とても驚きました。これまで楽しく部活動に取り組んだことがあり、本当にうれしかったです。

Q 作品完成のため工夫したことはなんですか
A 本文と名前を書く本が別のため、名前も本文に負けないように、力強い字のバランスを考えたこと、目立たないようにしたいと思っていました。目標に向かって頑張りたいです。書道は大切な趣味の一つとして続けていきたいと思っています。

今回の大高一番星は、7月13日に、第27回全日本高校・大学生書道展(公益社団法人日本書芸院・読売新聞社主催)において大賞を受賞した上野凛さんだ。上野さんは、全国の大学生と高校生が出品した7998点の中で、わずか55点しか選ばれない賞に選ばれた。ス意識して取り組みました。また、日々の部活で学んだ事や思ったこと、質問したい事などを書く「書道ノート」を通して、顧問の先生からの確かなアドバイスもいただきました。これも良かったと思います。Q これからの夢や目標について
A 将来は、フライトナース(緊急看護士)になりたいと思っています。目標に向かって頑張りたいです。書道は大切な趣味の一つとして続けていきたいと思っています。

【編集後記】3年生の皆さんご卒業おめでとうございます。前回の発行から短い期間でしたが、無事卒業記念号を発行できました。最後に「遙か長い道のりを歩き始めた卒業生に幸せあれ!」(米田博翔)

創立120周年記念の御寄付に感謝



北部九州安楽会顧問 福岡奄美会会長 大島 彰さん

未来に羽ばたく君たちへのエール!

第31回卒業記念で、

第26回卒業記念で、

第26回卒業記念で、

第26回卒業記念で、

第26回卒業記念で、

第26回卒業記念で、

第26回卒業記念で、

妹・郁子さんの遺志として 大高生を応援

本校第26回卒業で、福岡県で医師として活躍されている北部九州安楽会顧問の大島彰様が、創立120周年の節目に本校に総額で120万円の高額の御寄付を下さった。寄付は、県の事業「ふるさと母校応援プロジェクト」を通して行われ、吹奏楽部の楽器、図書館の書架、新聞部のパソコン等の購入に充てられた。妹・郁子さんの御遺志としていただいた御寄付は、本校の活性化に弾みをつけることとなった。今回、大島様から御寄付についていただいた寄稿と、本校生の喜びの声を掲載する。

本校第26回卒業で、福岡県で医師として活躍されている北部九州安楽会顧問の大島彰様が、創立120周年の節目に本校に総額で120万円の高額の御寄付を下さった。寄付は、県の事業「ふるさと母校応援プロジェクト」を通して行われ、吹奏楽部の楽器、図書館の書架、新聞部のパソコン等の購入に充てられた。妹・郁子さんの御遺志としていただいた御寄付は、本校の活性化に弾みをつけることとなった。今回、大島様から御寄付についていただいた寄稿と、本校生の喜びの声を掲載する。

本校第26回卒業で、福岡県で医師として活躍されている北部九州安楽会顧問の大島彰様が、創立120周年の節目に本校に総額で120万円の高額の御寄付を下さった。寄付は、県の事業「ふるさと母校応援プロジェクト」を通して行われ、吹奏楽部の楽器、図書館の書架、新聞部のパソコン等の購入に充てられた。妹・郁子さんの御遺志としていただいた御寄付は、本校の活性化に弾みをつけることとなった。今回、大島様から御寄付についていただいた寄稿と、本校生の喜びの声を掲載する。

本校第26回卒業で、福岡県で医師として活躍されている北部九州安楽会顧問の大島彰様が、創立120周年の節目に本校に総額で120万円の高額の御寄付を下さった。寄付は、県の事業「ふるさと母校応援プロジェクト」を通して行われ、吹奏楽部の楽器、図書館の書架、新聞部のパソコン等の購入に充てられた。妹・郁子さんの御遺志としていただいた御寄付は、本校の活性化に弾みをつけることとなった。今回、大島様から御寄付についていただいた寄稿と、本校生の喜びの声を掲載する。

本校第26回卒業で、福岡県で医師として活躍されている北部九州安楽会顧問の大島彰様が、創立120周年の節目に本校に総額で120万円の高額の御寄付を下さった。寄付は、県の事業「ふるさと母校応援プロジェクト」を通して行われ、吹奏楽部の楽器、図書館の書架、新聞部のパソコン等の購入に充てられた。妹・郁子さんの御遺志としていただいた御寄付は、本校の活性化に弾みをつけることとなった。今回、大島様から御寄付についていただいた寄稿と、本校生の喜びの声を掲載する。

本校第26回卒業で、福岡県で医師として活躍されている北部九州安楽会顧問の大島彰様が、創立120周年の節目に本校に総額で120万円の高額の御寄付を下さった。寄付は、県の事業「ふるさと母校応援プロジェクト」を通して行われ、吹奏楽部の楽器、図書館の書架、新聞部のパソコン等の購入に充てられた。妹・郁子さんの御遺志としていただいた御寄付は、本校の活性化に弾みをつけることとなった。今回、大島様から御寄付についていただいた寄稿と、本校生の喜びの声を掲載する。

本校第26回卒業で、福岡県で医師として活躍されている北部九州安楽会顧問の大島彰様が、創立120周年の節目に本校に総額で120万円の高額の御寄付を下さった。寄付は、県の事業「ふるさと母校応援プロジェクト」を通して行われ、吹奏楽部の楽器、図書館の書架、新聞部のパソコン等の購入に充てられた。妹・郁子さんの御遺志としていただいた御寄付は、本校の活性化に弾みをつけることとなった。今回、大島様から御寄付についていただいた寄稿と、本校生の喜びの声を掲載する。

本校第26回卒業で、福岡県で医師として活躍されている北部九州安楽会顧問の大島彰様が、創立120周年の節目に本校に総額で120万円の高額の御寄付を下さった。寄付は、県の事業「ふるさと母校応援プロジェクト」を通して行われ、吹奏楽部の楽器、図書館の書架、新聞部のパソコン等の購入に充てられた。妹・郁子さんの御遺志としていただいた御寄付は、本校の活性化に弾みをつけることとなった。今回、大島様から御寄付についていただいた寄稿と、本校生の喜びの声を掲載する。



吹奏楽部

この度は、大島高校に寄付した楽器を前に笑顔

この度は、大島高校に寄付した楽器を前に笑顔

この度は、大島高校に寄付した楽器を前に笑顔

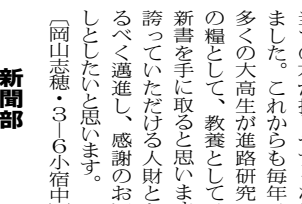
この度は、大島高校に寄付した楽器を前に笑顔

この度は、大島高校に寄付した楽器を前に笑顔

この度は、大島高校に寄付した楽器を前に笑顔



図書委員会



新聞部



格段にスムーズになると思います。今年は、第47回全国高等学校総合文化祭が、しま大会があり本校新聞部が生徒実行委員会の中心になります。購入した機材を活かしてますます活動を活性化させたいと思います。

【島名真生・1-2小宿中】